

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-24560

(43)公開日 平成6年(1994)4月5日

(51)Int.Cl.<sup>4</sup>

A 4 7 C 19/02  
7/42

識別記号

庁内整理番号  
A 9032-3K  
6908-3K

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平4-49968

(22)出願日 平成4年(1992)7月16日

(71)出願人 000010032

フランスベッド株式会社  
東京都渋谷区桜丘町31番15号

(72)考案者 田中 聡行

東京都昭島市中神町1148番地 フランスベ  
ッド株式会社東京工場内

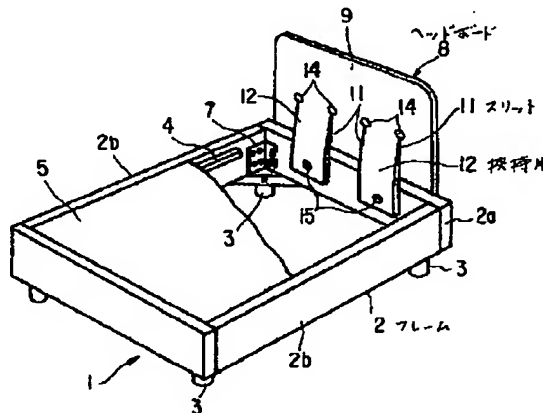
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【考案の名称】 家具用フレーム装置

(57)【要約】

【目的】 この考案はフレームの側片に立設されるボード体を、簡単な構造で容易に設けることができるようにした家具用フレーム装置を提供することを目的とする。

【構成】 マットレス6が載置されるフレーム1の側辺2aにヘッドボード8が下端部を連結して立設される家具用フレーム装置において、上記ヘッドボード8は弾力性を有する硬質板材からなり、この硬質板材には下端に開放する複数のスリット11を幅方向に所定間隔で設けることで複数の挟持片12を形成し、これら挟持片によって上記フレームの側辺を挟持して上記ボード体を上記フレームに固定することを特徴とする。



(2)

実開平6-24560

1

### 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項１】 クッション体が載置されるフレームの側面にボード体が下端部を連結して立設される家具用フレーム装置において、上記ボード体は弾力性を有する硬質板材からなり、この硬質板材には下端に開放する複数のスリットを幅方向に所定間隔で設けることで複数の挟持片を形成し、これら挟持片によって上記フレームの側面を挟持して上記ボード体を上記フレームに固定することを特徴とする家具用フレーム装置。

【図面の簡単な説明】

【図１】この考案の一実施例のベッドの全体構成を示す斜視図。

2

\* 【図2】 同様にヘッドボードの取付け構造の断面図。

【図3】 同じくヘッドボードの斜視図。

【図4】同じくヘッドボードの挟持片を弾性変形させた状態の斜視図。

【図5】この考案の他の実施例のソファー用のフレームを示す斜視図。

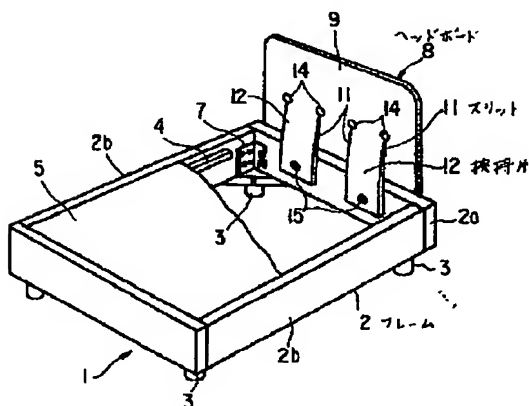
【図6】この考案のさらに他の実施例を示すボード体の取付け構造の断面図。

【符号の説明】

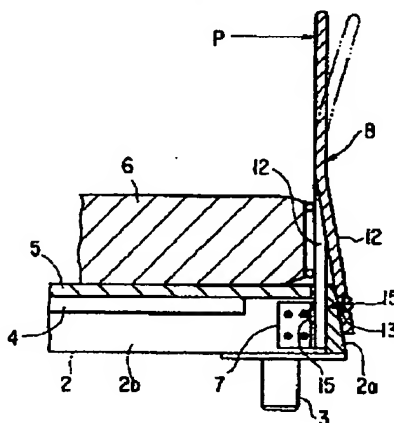
10 1…フレーム、2 a…フレームの側片、6…マットレス  
(クッション体)、8…ヘッドボード(ボード体)、1

\* 1…スリット、12…挟持片。

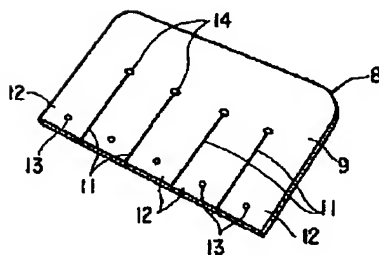
【図 1】



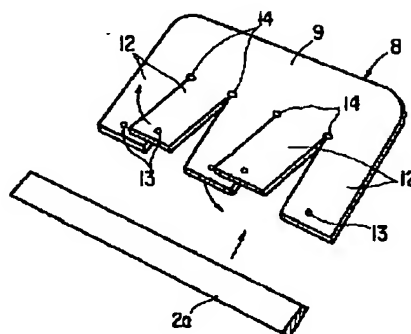
【图2】



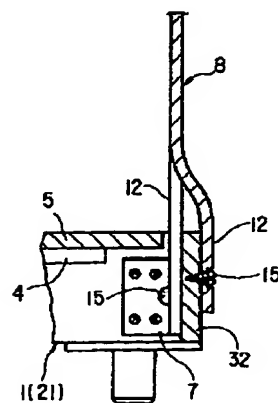
【例 3】



【☒ 4】



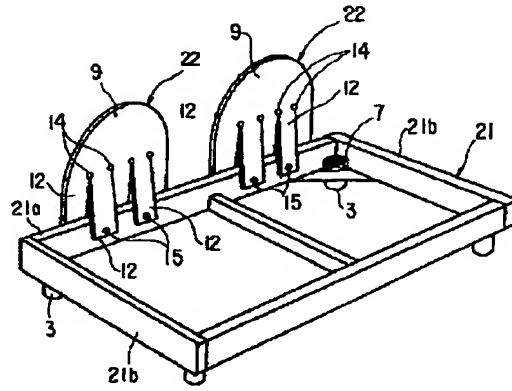
【图6】



0 9 5 2 - 9 平 開 夾

(3)

【図5】



(4)

実開平 6-24560

**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案はベッド、ソファあるいは椅子などに用いられる家具用フレーム装置に関する。

**【0002】****【従来の技術】**

ベッド、ソファあるいは椅子などにおいてはクッション体が載置されるフレームを有し、このフレームにはベッドの場合はヘッドボード、ソファあるいは椅子などの場合には背凭れボードのようにボード体が立設される。

**【0003】**

従来、上記ボード体をフレームに取付けるには、ボード体に取り付部材を設け、この取付部材を連結金具によって上記フレームに連結固定するということが行われていた。

**【0004】**

このような構造によると、上記ボード体に取り付部材を設けなければならないから、構造が複雑化してコスト高を招くということがあり、またその表面形状も複雑化するから、その表面を塗装や加工などの表面仕上げをする際に多くの手間が掛かるということもあった。

**【0005】**

さらに、上記ボード体をフレームに連結するのに上記連結金具が必要となるから、部品点数の増大によるコスト高や組立て作業の複雑化を招くなどのことがあった。

**【0006】****【考案が解決しようとする課題】**

このように、従来のボード体はフレームに連結固定するのに、取付部材を必要とし、その取付部材を連結金具によって上記フレームに連結固定していたので、形状が複雑化して表面仕上げに手間が掛かったり、部品点数の増大によるコスト高や組立て作業の複雑化を招くなどのことがあった。

(5)

実開平6-24560

## 【0007】

この考案は上記事情に基づきなされたもので、その目的とするところは、ボード体を簡単な構造とするとともに、このボード体をフレームに容易に取付けることができるようにした家具用フレーム装置を提供することにある。

## 【0008】

## 【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するためにこの考案は、クッション体が載置されるフレームの側辺にボード体下端部を連結して立設される家具用フレーム装置において、上記ボード体は弾力性を有する硬質板材からなり、この硬質板材には下端に開放する複数のスリットを幅方向に所定間隔で設けることで複数の挟持片を形成し、これら挟持片によって上記フレームの側辺を挟持して上記ボード体を上記フレームに固定することを特徴とする。

## 【0009】

## 【作用】

上記構成によれば、ボード体は硬質板材の下端部にスリットによって複数の挟持片を形成しただけの簡単な構造であり、しかも上記挟持片をフレームの側辺に挟持して取付けるため、取付けも容易に行える。

## 【0010】

## 【実施例】

以下、この考案の一実施例を図1乃至図4を参照して説明する。図1は家具としてのベッド1を示す。このベッド1は矩形枠状に形成されたフレーム2を備え、このフレーム2の下面四隅部には脚3が設けられている。また、フレーム2の両側辺の内面には図2に示すように受け枠4が設けられ、この受け枠4には床板5が幅方向両端部を係合させて架設されている。この床板5の上面にはクッション体としてのマットレス6が載置される。

## 【0011】

上記フレーム2の長手方向一端側の側辺2aは、その長手方向両端が幅方向両端の側辺2bの端部に連結具7によって着脱自在に連結されている。この側辺2aの断面形状は、図2に示すように下端にゆくにしたがって厚さが厚くなるよう

(6)

実開平6-24560

、その外面を傾斜させた楔状に形成されている。

#### 【0012】

上記側辺2aにはボード体としてのヘッドボード8が立設されている。このヘッドボード8は、弾力性を有する硬質板材、たとえば合板9からなり、この合板9には図3に示すようにその下端に開放した複数のスリット11が幅方向に所定間隔で形成されている。それによって、上記合板9の高さ方向下端部は、複数の挟持片12となっている。各挟持片12の下端部にはそれぞれ取付孔13が形成され、また各スリット11の上端は挟持片12を弾性変形させたときに応力が集中するのを防止するための丸孔14が形成されている。

#### 【0013】

上記ヘッドボード8は、図2に示すようにその挟持片12を板面の前後方向に交互に弾性変形させて上記フレーム2の側辺2aを挟持するとともに、各挟持片12の下端の取付孔13から上記側辺2aにねじ15を振じ込むことで、上記フレーム2に立設状態で取付け固定されている。

#### 【0014】

このような構成の家具用フレーム装置によれば、ヘッドボード8は合板9にスリット11を設けて複数の挟持片12を形成しただけの簡単な構造であるから、製作が容易であるばかりか、表面塗装や加工などの表面処理も容易に行うことができる。

#### 【0015】

また、組立てに際しては挟持片12を弾性変形させてフレーム21の側辺2aに挟持させ、各挟持片12をねじ15で上記側辺2aに固定するだけであるから、その組立て作業が容易であるばかりか、従来のように連結金具を用いずにすむから、部品点数の減少を図ることができる。

#### 【0016】

しかも、上記挟持片12が挟持するフレーム2の側辺2aの断面形状は、その外面を傾斜させた楔状になっているから、図2に示すように側辺2aの外面に接合する挟持片12を無理なく滑らかな湾曲状態で弾性変形させて取付けることができる。それによって、外観的に良好であるばかりか、図3に矢印Pで示すよう

(7)

実開平6-24560

に利用者が寄り掛かるなどして荷重を受けた場合、各挟持片12に無理な応力が加わることがなく、円滑に弾性変形する。

**【0017】**

ヘッドボード8の挟持片12のうち、側片2aの外面に接合する挟持片12は上記側片2aに固定せず、内面に接合する挟持片12だけを上記側片2aに固定してもよい。

**【0018】**

そのような取付け構造によれば、ヘッドボード8に利用者が寄り掛かるなどして荷重が加わると、その荷重に対してヘッドボード8を大きく弾性変形させることができる。

**【0019】**

図5はこの考案の他の実施例を示す。この実施例はフレーム装置として二人掛け用のソファのフレーム21を示す。このフレーム21の長手方向に沿う一方の側辺21aは、その両端が長手方向両端に位置する側辺21bに連結具7によって着脱自在に連結されている。上記側辺21aは上記一実施例と同様、断面形状が楔状に形成されている。そして、この側辺21aには上記一実施例に示されたのと同じ構造の一对の背凭れボード22が所定間隔で取付けられている。

**【0020】**

上記フレーム21上には図示しないクッション体が設けられ、このクッション体に着座した利用者が上記各背凭れボード22に寄り掛かることになる。なお、この実施例において、上記一実施例と同位分には同一記号を付して説明を省略する。

**【0021】**

このような構造のソファによれば、背凭れボード22の構造や形状が簡単であるばかりか、その取付け構造も簡単であるにも係わらず、背凭れボード22としての十分な性能を備えることができる。つまり、上記構成の背凭れボード22によれば、従来に比べて製作や組立て作業の容易化および部品点数の減少によるコストダウンを計るなどのことができる。

**【0022】**

(8)

実開平 6-24560

図6はこの考案のさらに他の実施例を示す。この実施例はベッドあるいはソファにおいて、そのフレーム1あるいは21のボード体31が取付けられる側辺32の断面形状が上記各実施例のように楔状でなく、矩形状の場合、その側辺32の外面側に位置する挟持片12を、その外面に接合するよう曲成したものである。

このような構造によれば、フレーム1あるいは21の側辺32に従来と同様の矩形断面形状のものをを用いることができるということがある。

なお、この考案におけるフレーム構造は、ヘッドボードやソファだけでなく、他の家具、たとえば椅子などにも適用することができる。

#### 【0023】

##### 【考案の効果】

以上述べたようにこの考案は、クッション体が載置されるフレームの側辺にボード体が下端部を連結して立設される家具用フレーム装置において、上記ボード体は弾力性を有する硬質板材からなり、この硬質板材には下端に開放する複数のスリットを幅方向に所定間隔で設けることで複数の挟持片を形成し、これら挟持片によって上記フレームの側辺を挟持して上記ボード体を上記フレームに固定することを特徴とする。

#### 【0024】

したがって、このような構造によれば、ボード体の形状を簡単にすることができるから、製作や表面仕上げなどの容易化を計ることができるばかりか、ボード体をフレームに取付けるのに、専用の部品を必要としないから、部品点数の減少によるコストの低減が計れるなどのことがある。



EB-26017 (103116-01)

Hugo De Ruiter Serial No. 10/583,522 filed June 16, 2002

Translation of Claim 1 of Japanese Patent Office Reference 4-49968

[Claim 1] In a frame device for furniture with which a board body connects a lower end part with a side of a frame in which a cushion body is laid, and is set up. The above-mentioned board body consists of a hard plate which has elasticity, and two or more sandwiching pieces are formed by providing crosswise two or more slits opened to a lower end in this hard plate with a prescribed interval. A frame device for furniture pinching a side of the above-mentioned frame and fusing the above-mentioned board body to the above-mentioned frame with these sandwiching pieces.

O:\SR\EB-26017-JPO-Claim 1